



製作中の神殿を山城会長に披露する学生たち
(秋田職能短大)

本年度の会場へ

アメッコ市は会場を転々と移動して開かれていたが、1972年に市、観光協会、商工会議所が主催して大町が会場となった。神殿は86年に大館青年会議所が寄贈。当時を知る石川建築の石川成社長によると、「会場には雪像の神殿が設置されていたが、毎年造るのが大変ということで、杉の間伐材で製作して贈った」という。

神殿はアメッコ市当日の朝、業者に依頼し、大館神明社境内からユニック車を使って会場に運び、クレーンで慎重に設置する。観光協会は

大館市の冬の風物詩「大館アメッコ市」の会場に設けられる神殿を秋田職業能力開発短期大学校（中村雅英校長）の学生が製作している。老朽化が進み、市観光協会から相談を受けて昨年度、試作した。本年度は正式に製作の依頼があり、2年生5人が5月に着手。屋根などを取り外すことができ、運搬や設置作業を省力化できる神殿の完成が近づき、17日に関係者が製作現場を訪れた。

大館アメッコ市

職短生が神殿製作

老朽化進み 観光協が依頼 小型軽量で設置省力化

「老朽化が進んでおり、更新のタイミングでコンパクトにして設置作業を省力化した」と昨年度、同短大に相談。住居環境科の中田智大・能力開発准教授の指導で学生が試作した。

本年度は同科の5人が卒業研究にあたる総合制作実習で5月から製作を進めてきた。新しい神殿は屋根までの高さが約3倍、建物部分の横幅が2倍65センチ、奥行きが1倍84センチ。これまでの神殿より一回り小さく軽量化を図った上、運搬しやすいように屋根や壁などパーツごとに取り外せる造りとなっている。

中田准教授によると、試作品の図面を参考にしながらも、見た目のバランスやさらに軽くするために柱を細くするなど改良して一から造り上げた。くぎは極力使わず、学生は「多少の誤差ですが生じるので大変だった」と話す。

残る作業は屋根と扉の取り付けで、班長の西田樹さんは「みんなで見えを出し、解決しながら造ってきた努力の結晶。地域の伝統行事に形として残るものづくりに携われてうれしい」と完成へ意欲を見せた。

同短大を訪れた観光協会の山城久和会長は「耐久性と運びやすいものをとの依頼通りで、雰囲気のある神殿ができている。来年2月のアメッコ市会場に設置するのが楽しみ」と感謝した。

来年1月14日に同短大で、完成した神殿のお披露目を予定している。